

鶴岡市におけるシロハラクイナ *Amaurornis phoenicurus* の

観察記録

日本野鳥の会山形県支部 築川堅治

シロハラクイナ *Amaurornis phoenicurus* は、県内では酒田市飛島で数例の記録があるが、本土側では初記録となる鶴岡市での観察記録を報告する。

観察状況

2023年6月1日午前6時45分頃、鶴岡市大山上池の西の入り江の北岸（38°44'58"N, 139°45'10"E）に後ろ向きで何かをついばんでいる種を発見した。筆者が観察していた地点Aからのその不明種Bまでの距離は直線で約270mほどである（図1）。



図1. 観察した地点と対象種のいた場所

60倍の望遠鏡でしばらく観察していると、やがて横向きになり、羽衣と黄色く長い脚などの特徴から本種がシロハラクイナであることを確認した（図2）。



図2. 岸辺のシロハラクイナ 2023年6月1日筆者撮影

本個体はゆっくりと歩きながら探餌し、徐々に右方向へ移動していき、約30分後には岸辺の木々の陰になり見えなくなった。本個体が探餌していた上方にはカワウ *Phalacrocorax carbo* の小規模のコロニーがあるが、互いに干渉はしていなかった。また、本個体の近くには他種はいなかった。

この情報を知らせた当支部会員の2名が、その日の午後や翌日に現地へ出向いたが、本個体を確認することはできなかったことから、同地内の見えない所にいたか、立ち去ったと思われる。その後も情報はなかった。

分布

本種は、中国南部から東南アジア・インドに分布する（桐原 2000）。日本では留鳥として奄美諸島と琉球諸島に分布する他、各地でも稀に記録され、繁殖例もある（大

西 2014)。

記録

本種の山形県における記録は、酒田市飛島で少なくとも 1983 年 5 月、2003 年 5 月 4 日、2005 年 5 月 18 日、2015 年 5 月 24 日、2016 年 5 月 8 日の 5 回の記録がある。

参考・引用文献

桐原政志・山形則男、吉野俊幸 2009.日本

の鳥 550 水辺の鳥 増補改訂版.文一総合出版、東京

日本鳥学会 2012.日本鳥類目録改訂第 7 版.日本鳥学会、三田.

日本野鳥の会山形県支部 1978～2023.ヤマセミ創刊号～101 号.

真木広造・大西敏一・五百澤日丸 2014.決定版 日本の野鳥 650.平凡社、東京

(2023 年 7 月 9 日 記)